「日々の理科」（第 3997 号） 2025,-7,17

「北海道一周鉄道旅行 （５）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka

旅行先で郵便局に寄るのには理由があります。実際に友人や親戚宛に絵はがきなどを差し出すこともありますが、別の目的は「風景入り消印」です。

風景入り消印（通称「風景印」）というのは、郵便局の窓口に備えられている消印（切手抹消印）の一種です。消印には「和文印」(国内郵便用)、「欧文印」(国際郵便用)、機械印（自動押印)、ローラー印（小包・大型郵便用／和文と欧文あり）など、多くの種類があります。いずれも局名、日付、引受時刻などが印字されている、デザイン的には味気ないものです。

しかし風景入り消印はちがいます。名の通り、その郵便局がある土地の風景が描かれています。土地によっては、文化財、産物、伝統行事、所縁の人物像などの意匠もあります。

ただし、風景入り消印はあくまでも「切手抹消印」（使用前の切手を使用済みにする印）の一種なので、駅の記念スタンプとちがって、ただ白い紙を出して「風景印お願いします」と言っても押印してくれません。第二種郵便（はがき）の郵便料金に相当する未使用切手（2025 年現在 85 円）を貼ってはじめて押印に応じてくれます。もちろん絵はがきや封書の切手にも押してくれますが、私のようにスケッチブックの画の上に切手を貼っても押印してくれます。風景印であっても、「郵便局の公式印」ですので、「その日に、その土地に行った」という証拠と記念にもなるのです。

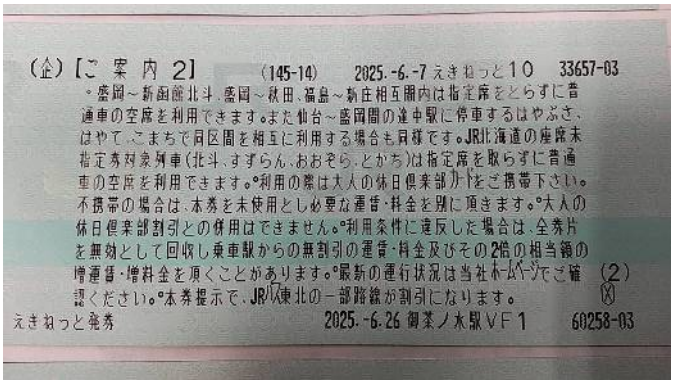
もちろん手持ちの切手でも良いのですが、私は必ずその郵便局で切手を購入して押印を依頼するようにしています。それが局員さんへの礼儀だと思います。

大沼郵便局の風景印は、私が描いた画の構図にそっくりの絵柄（意匠）で、押印してくれた局員さんは、「これ、今描かれたんですか？？」と驚いていました。「ええ、素人の落書きですけどね・・・ははは」というのが私のいつもの応答です。

大沼公園駅に戻ると、ホームには何人かの人が次の列車を待っていました。年配のご夫妻が、「おおぬまこうえん」の駅名版を入れた「自撮り」に苦労されていたので、「お撮しましょうか？」と言ったら、喜んでカメラを渡してくれました。「ガラケー」でした。「いいのが撮れましたよ、年賀状に使ってください」と言ったら「あ～～、そうします、そうします、ありがとう！」と大変喜んでくださいました。

大沼公園駅までは普通列車でしたが、今度乗る列車は「特急北斗号」です。この列車は昭和時代から走り続けている名門特急の一つで、函館～札幌間を約４時間で結んでいます。本州の特急との一番のちがいは、「電車ではない」ことです。函館本線と直通する室蘭本線の一部は非電化なので、特急も気動車（ディーゼルカー」なのです。気動車特急はかつて日本全国に走

っていましたが、今でも健在なのは、北海道、四国、紀勢本線、高山本線、山陰本線などごく一部だけです。


(企)【ご 案 内 2】 (145-14) 2025.-6.-7 えきねっと10 33657-03
・盛岡～新函館北斗、盛岡～秋田、福島～新庄相互間内は指定席をとらずに普通車の空席を利用できます。また仙台～盛岡間の途中駅に停車するはやぶさ、はやて、こまちで同区間を相互に利用する場合も同様です。JR北海道の座席未指定券対象列車(北斗、すずらん、おおぞら、とかち)は指定席を取らずに普通車の空席を利用できます。・利用の際は大人の休日倶楽部カードをご携帯下さい。不携帯の場合は、本券を未使用とし必要な運賃・料金を別に頂きます。・大人の休日倶楽部割引との併用はできません。・利用条件に違反した場合は、全券片を無効として回収し乗車駅からの無割引の運賃・料金及びその2倍の相当額の増運賃・増料金を頂くことがあります。・最新の運行状況は当社ホームページでご確認ください。・本券提示で、JR八東北の一部路線が割引になります。 (2) (X)
えきねっと発券 2025.-6.26 御茶ノ水駅ＶＦ1 60258-03

実はこの「北斗号」は私が指定券をとった特急の１本前の列車です。今回利用したフリー切符では、指定席は６回まで利用できますが、もう枠が一杯でした。しかし、自由席は何度でも利用できます。北斗号は「全車指定席」なので、本来は乗れないはずなのですが、ちゃんと救済措置があります。添付の案内書きをよく読むと、北海道の全車指定席の特急には、「空席に乗ってよし！」と書いてあります。ただし、指定券を持った人が乗ってきたら、席を替わる必要があります。私は乗る直前にスマホ「えきねっと」で空席を調べておくという「裏技」を使って、難なく座れました。

予定よりも１本前の特急に乗ったのは「森」で途中下車したかったからです。海（噴火湾）のすぐそばにへばりつくように立地している駅です。

森で下車したのは、私一人だけでした。こんな利用状況なのに特急は停車するし、駅員さんもいる「優等駅」なのです。

「大沼駅」で２方面に分岐した函館本線は、再び森駅で合流します。「駒ヶ岳駅」が「大沼公園駅」経由の本線駅、「東森駅」が「砂原支線」経由の駅です。「海の目の前森駅」という不思議な駅名です。

札幌行きの北斗号は、私一人を降ろして、誰も乗せずにさっさと行ってしまいました。よく考えると、私一人の為にわざわざ停車してくれたことになります。北海道の特急としては長編成の列車に、何だか申し訳ない気がして、見えなくなるまで見送りました。